

生涯音楽学習の活動◆みんなの音楽・みんなで音楽

生涯学習の原点と指導の出発点

音楽ネットワーク弘前の誕生に思う

音楽ネットワーク弘前顧問

川村昇一郎

弘前といえば、2000万人が訪

れる桜祭りや、ネプタ祭りで有名だが、他にも、りんご、岩木山、弘前城、禅林街、そしてギャラリーの街、コーヒーマーの街など、いろいろな顔をもっている。〈音楽ネットワーク弘前〉は、そんな東北の小京都、弘前市に、2005年6月に産声をあげたのである。

始まり

物事が始まるのに時間はいらない。何ヶ月も何年も考えたり、努力しても出来なかったことが、ある時唐突に出来てしまうという経験は、誰しも持っているであろう。〔ギャラリーネットワーク弘

前〉ができたんですよ」

その日、弘前文化会館館長室で、館長の田中弘子さん（現在、NPO法人〈あおもりNPOサポートセンター〉理事長）が、私に一枚のリーフレットを手渡した。

「市内のギャラリーの紹介と、場所の地図が書いてあるんです」鮮明なカラー刷りで、特徴のある建物や、その内部の芸術空間に目を奪われていると

「音楽も作ってみませんか？」と声がかかった。

「いいですねえ、やりましょう」私はこの種の企画が、半世紀近く、持ち上がったては消えていった事情を知っていたにもかかわら

ず、何故か即答していた。

2004年4月、外は満開の桜であった。

立ち上げに向けて

5月、弘前市合唱連盟の会議で、趣旨を説明し、14団体が参加を希望した。しかし、その後多忙な日々が続き、気がつくとは街にはジンゲルベルが流れていた。

趣意書を作ったりする時間のなかった私は、器楽系の団体に連盟などがないため、代表者や指揮者に、直接電話で趣旨を語った結果、弘前オペラ、弘前交響楽団をはじめ、吹奏楽団、木管、金管、打楽器、マンドリンの各アンサンブル、声楽をもふくむ、バツハアンサンブル、バロックアンサンブル、そして、女声、男声の合唱団と、翌年3月までに計25団体が参加を表明した。

立ち上げ総会

（2005年6月7日）

各団体の代表者をはじめ、30名

が参加し、オブザーバーに、弘前市教育委員会生涯学習課長、市民会館館長、文化会館館長、中央公民館館長、NHK文化センター弘前支社長を迎えて、立ち上げ総会を開いた。

その席で、あらためて趣旨説明に立った私は、

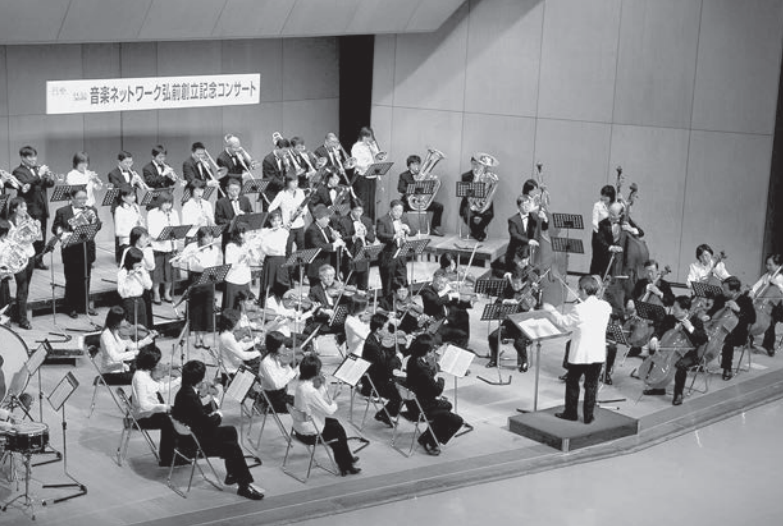
「それぞれに実力があり、県内外のみならず、海外でも活躍している団体もある。弘前市内では、合計すると、毎年40回以上の演奏会を開いているにもかかわらず、お互いをあまり知らずにいる事实は、決して望ましい姿ではない。これから向上発展していくためには、まず相互の交流が大切である」と序し、次のように提案した。

一、名称を〈音楽ネットワーク弘前〉とする。

二、お互いを理解し合い、ネットワークすることにより、〈音楽のある街弘前〉を目指す。

三、入退会は自由。会費は当面、各団体年間千円とする。

四、さしあたっての事業として、



▲創立記念演奏会

各団体の活動状況をリーフレットにまとめ、今年度中に創立記念コンサートを開催する。

五、以上のことを効率よく推進するため、運営委員を選び、原案を作成する。

これらを含め、すべての議案が満場一致で承認され、ここに、今まで例をみなかった、音楽系と音楽系団体の枠を超えたネットワーク

クが、誕生したのである。

代表に推された私は、次のように結んだ。

「新しいことに取り組む時には、ともすれば、仕事が増えて大変だと思いがちだが、それぞれがもっているエネルギーの中から、ネットワークのために10%を削ぐのではなく、全体のキャパシティを110%に増やして、余った10%をこのネットワークと、音楽を愛する多くの人たちのために使ってほしいのである」

第二回総会

(同年12月6日)

一、創立記念コンサートを、翌2006年2月に開催する。それに対する多くの意見や希望が出た後、時間的余裕がないので、具体的なことは、運営委員会に一任する。

二、リーフレットのプレゼンテーションと、内容の検討がなされ、完成後、創立記念

コンサートの場で、各団体に配布する。

三、新しく参加した団体の紹介。(26団体となる)

創立記念コンサート

(2006年2月19日、弘前市民会館)

午後2時、弘前市吹奏楽団の華やかなファンファーレで幕を開けた。参加20団体、総出演者400名。4時間半に及ぶマラソンコンサートであった。

次々とステージを賑わす、オーケストラ、吹奏楽、金管、木管、打楽器、マンドリンのアンサンブル、そしてオペラ、合唱の各団体は、それぞれの特色を十分にアピールして、個性ある豊かな音楽を奏でた。聴衆は、時に耳をすまして静まり、時に手拍子を打って、このロングランにもかかわらず、少しの精神的時間の停滞も感じさせなかった。フィナーレは、ホルの合唱団や聴衆が全員立ち上がり、ステージ上の弘前交響楽団と

弘前市吹奏楽団と共に、「弘前市民の歌」を高らかに合唱して、拍手と感動の内に幕を閉じた。

最後に挨拶に立った私は、

「このようなコンサートが成功裡に終わることができたのは、演奏だけではなく、裏方から協力しあった各団体の心意気に、エールを送って下さった、弘前市をはじめ、たくさんの方々温かいご支援の賜物であり、ひいては、弘前市の文化を内包する民度の高さを示すものである。三年後には、弘前市は〈音楽のある街〉となり、五年後には〈弘前音楽祭〉を開催したい」と宣言した。

レセプション

コンサート終了後の、お互いを歓迎しあうレセプションには、62名が参加した。挨拶と乾杯の後、各テーブルで、お互いを紹介し合い、それぞれの代表が演壇に立つて、自分たちの活動と、コンサートの感想を述べた。盛り上がり